

小山三中だより



ひまわり

「いつでも・どこでも・誰にでも」 「明るく さわやかな あいさつ」

学校教育目標

【目指す生徒像】

自ら進んで学習する生徒
正しく判断し行動する生徒
心身を鍛え逞しく生きる生徒

2026.2.20発行(第14号)

小山市立小山第三中学校

2年生が「立志式」を行いました

2月3日(火)、2年生が無事に立志式を行うことができました。というのも1月後半は、インフルエンザの流行により2年生は「学年閉鎖」をしたからです。実行委員を中心に、限られた時間の中で計画をして、準備・練習に取り組んだ2年生。式中の姿を見ると、それぞれにこれまでの自分を振り返り、しっかりと「志」を立てたのではないかと感じました。

そして、記念講演では、シニアタレントの様に「夢

は叶う」という演題で講話をいただきました。

様は、以前本校で主幹教諭として勤務されており、当時は私自身、大変お世話になった先生のお一人です。「口」(くち)に「+」(プラス)と書いて「叶う」(かなう)。「叶」に「-」(マイナス)を加えると「吐く」(はく)になってしまうことなど、漢字をもとに「プラス思考」の大切さを、ご自身のこれまでの経歴と関連付けてお話をしてくださいました。

そして保護者の皆様、お子さまへのメッセージにつきましては、本当にありがとうございました。真剣なまなざしでじっくりと読む生徒の姿に胸が熱くなりました。

【立志式 校長式辞】(一部を紹介します)

この機会に私から皆さんに、二つの言葉を贈ります。

一つ目は「初心」です。初心とは、「初めに思い立った心」「何かしようと最初に思い立ったときのひたむきな気持ち」のことです。勉強でも部活動でも、最初は「できるようにになりたい」「上手くなりたい」という前向きな気持ちがあったはずですが、しかし、続けていく中で、うまくいかないことや壁にぶつかると、このままでよいのかなどと迷うことがあります。そんな時こそ、「自分が何を目指し、どんな思いで歩き始めたのか。」という初心を思い出して

写真

ください。その原点に立ち返ることで、再び前に進む力が湧いてきます。社会人になる時、二十歳を迎えた時など、今後の人生の中で環境が変わるたびに新たな初心が生まれますが、十四歳の今の初心は、皆さんのこれからを支える大切な土台となります。「初心忘るべからず」という言葉のとおり、今の気持ちを大切に、皆さんの夢に向かって、これからの一年を、これからの人生をしっかりと歩んでほしいと思います。

二つ目は「人事を尽くして天命を待つ」です。これは、自分が「人としてできる限りのことをして、その結果は天の意思に任せる」という意味です。皆さんはこれから、勉強や部活動、進路選択など、さまざまな場面で努力を求められます。しかし、努力しても必ずしも思いどおりの結果が得られるとは限りません。例えば、勉強しても点数が伸びない、練習したのに試合で勝てないということがあるでしょう。大切なのは、結果そのものよりも、そこに至るまでにどれだけ真剣に取り組んだかということです。全力を尽くした経験は、必ず皆さんの力となり、人として成長し、未来を切り開く支えになります。そして、努力する姿は周りの人に伝わり、応援してくれる人が増えます。応援し、支えてくれた人への感謝を忘れず、「最高」をめざして、努力することを大切にしてください。

【代表生徒の立志作文】

〇2年代表生徒

「将来の夢」

私の夢はブライダルヘアメイクアーティストになることです。この仕事は結婚式で主に花嫁の人にヘアメイクをするという仕事です。

私がこの夢をもったきっかけは、小さいころテレビを見ていて、花嫁さんがとてもかわいくヘアメイクをしてもらっていたので憧れました。そこから、自分の髪で練習をしてみて最初は上手くいかなかったけれど、たくさん練習していくうちにだんだん

できるようになりました。そして、もっとヘアメイクが好きになったので、この夢を叶えたいと思うようになりました。

なぜこの夢を叶えたいのかというと、きっかけはもちろんですが、それ以上に、結婚式するとき花嫁さんにヘアメイクをやって喜んでほしい、笑顔になってほしいという思いがあるからです。結婚式は人生で一度だけなので、自分がやった髪形やメイクで最高の一日にする手伝いをして笑顔を増やしたいと思います。

そのために自分はコミュニケーション能力を高めたいです。結婚式は華やかな雰囲気なのにヘアメイクをやっているとき、雰囲気が悪かったら誰でも嫌な気持ちになると思います。だから、自分は一人一人にあったコミュニケーションをとりながら華やかな雰囲気を作っていきたいです。この夢を叶えるために毎日の生活を大切に頑張りたいと思います。

〇2年代表生徒

「理想の自分に近づくために」

私の理想の自分は「他人から応援してもらえる人」です。この考えをもつようになったきっかけは、所属している剣道部での経験にあります。顧問の先生から「人に応援される、人から愛されるような人間になれ」とよく言われてきました。応援される人は自然と結果もついてくるという話を聞き、私も周りから応援される存在になりたいと思うようになりました。

特に昨年大将を務めていた先輩は、その言葉を体現したような人でした。普段からメリハリのある生活を心がけ、仲間の良くない行動をはっきり指摘できる、自分を律する力をもった人でした。その姿は仲間からも信頼され、まさに応援される人だと感じました。

一方で、自分たちの最近の様子を振り返ると、仲間同士の仲が良いあまり、悪いところを言い合えなかったり、話に夢中で周囲へ気を配れなかったりと、応援される行動ができていなかったと反省しています。そこで私は、「周りの人のために行動すること」を意識したいです。配り物を進んで行うこと、友達や家族の手伝いを積極的にすることなど、日常でできることは多くあります。他の人が面倒に感じることを率先して行うことが、応援される人へと近づく一番の方法だと考えています。これからの生活でもこの姿勢を忘れず、理想の自分に歩ずつ近づいていきたいです。

「コミュニティ・スクール」について

本校は、平成27年度に小山市教育委員会の指定を受けて、栃木県内の中学校で初めて「コミュニティ・スクール」(学校運営協議会制度)を導入しました。11年目を迎える今年度も、4回の会議を行い、学校運営について意見をいただくなどしながら「地域とともにある学校づくり」を進めてきました。

1月に行った「おはなしフルール」による読み聞かせ「おはなし会」や図書室の新刊コーナーの設置、花壇の整備などは、これまでの取組によるものです。他にも、1年生の職業人講話「地域の先輩に学ぶ」や2年生の「職場体験学習」の実施など、多方面にわたり学校の教育活動がより充実するように、そして、生徒の学びがより豊かになるよう意見をいただき、一緒に活動していただきました。本当にありがとうございました。また、生徒や保護者の皆様からいただいた学校評価の結果に対して、私たちが気づきにくい視点から貴重なご意見もいただきました。こうした取組を、1月29日(木)小山市教育委員会主催の「教育フォーラムおやま」において、教頭が発表しました。

学校が多くの方に支えられていること、そして、そうした皆さんのお力添えが、生徒の豊かな学びに繋がっていることを感じております。誠にありがとうございます。今後も「地域とともにある学校づくり」に努めていきたいと思

写真

「おはなし会」にて

栃木県教育委員会 教育長メッセージ

～私たちが大事にしたい4つのこと～

SNS上で、学校における児童生徒の暴力行為等の動画が拡散されたことは、報道でも大きく取り上げられています。栃木県教育委員会 教育長から「私たちが大事にしたい4つのこと」としてメッセージが届きました。

- 1 「自分も他の人も大切にすること」
- 2 「ひとりで抱え込まなくていいということ」
- 3 「SNSを安心して使うために」
- 4 「みんなで作る安心できる学校」

教育長メッセージの原文は、生徒用タブレットで見ることができですが、本校のHPにも掲載しましたので、ぜひお読みください。また、お気づきのこと等がありましたら、遠慮なく学校までご連絡ください。